

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

交通と情報通信に関する社会的排除の研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黒山, 良洋 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/1569

博士学位論文内容要旨
Abstract

専攻 Major	応用環境システム学	氏名 Name	黒山良洋
論文題目 Title	交通と情報通信に関する社会的排除の研究		

社会的排除は、個人が貧困状態にあることだけでなく、社会活動への参加や、社会保障などの制度、サービスの利用からの排除を含む概念である。中でも、公共交通の利用の可否は社会生活に関する調査において指標の一つとして扱われている。一方、情報通信は人々の移動を代替、または補完するサービスとされている点で交通との関連性がある。本研究は、交通と情報通信という2種類のサービスへのアクセシビリティを確保することで、いかに社会的排除が防止されるかを考察するものである。

2章において、社会的排除、ソーシャル・キャピタル、アクセシビリティの3つを取り上げ、先行研究をもとに議論の整理を行った。社会的排除は、当初は障害などに陥っている状態を指していた。しかし、社会活動やサービスの利用からの排除など、より広い範囲の人々が陥る恐れがある状態として認識されるようになった。

一方、ソーシャル・キャピタルは人々間の信頼感やネットワークを指す概念であり、社会活動の参加に影響を受けるとされる。先行研究には、公共交通サービスの利用とソーシャル・キャピタルの関係性を考察しているものがある。ただし、一般的に定量化が難しい概念とされている。

また、アクセシビリティは、ある財を入手したり、サービスを利用したりする際の容易さを評価するものであり、排除の程度を定量的に把握する際に用いられる概念である。先行研究では、一定の時間や距離の範囲内に存在する活動機会である「累積機会数」や個人は自らの効用を最大化する選択肢を選ぶという仮定に基づく「確率効用モデル」を用いてアクセシビリティの計測がなされている。これらのアプローチにより、アクセスのしやすさをある程度定量的に把握できる。

3章から5章では、上記3概念についての実証研究を、中山間地域と離島地域という条件不利地域を対象に行った。

まず3章では、中山間地域の高齢者に外出を行う際の外出状況について行った聞き取り調査の結果を分析する。調査は、知人の訪問、社会活動の一環である趣味の会、ならびに買い物に行く際の移動手段、目的地、活動の頻度などに関して行った。その結果、外出の目的を問わず、自家用車を移動手段として挙げる回答者が多かった。また、高齢女性は高齢男性よりも運転免許の取得経験がない人が多く、外出手段を家族や知人が運転する自動車への同乗に頼る傾向にあることが判明した。

4章では、離島における高校、医療機関、食品スーパーという3種類の施設へのアクセシビリティの確保が、社会的包摂の実現にどのように関係しているかについて検証を行った。長崎県と鹿児島県のそれぞれの離島における高校、医療機関、食品スーパーの各施設の設置状況をまとめた後、離島航路を用いずに島内の施設のみを利用する場合、現行の離島航路ダイヤに従って外出した場合、離島航路ダイヤを改正した場合のそれぞれについて、アクセス可能な施設数の変化を求め、離島交通政策のあり方を方向付けるための情報を得た。

5章では、中山間地域において、住民が日常生活に関わる情報をどのような手段で収集しているかを調査した。ここでは、ごみ収集、路線バスの時刻、地域の祭り、地域のイベントや講座、地域の医療機関という5つの分野における情報を扱った。また、パソコンと携帯電話・スマートフォンを使用する頻度についても調査した。情報サービスへのアクセスについての先行研究は、高速インターネットやケーブルテレビなどの新しいメディアの機能に着目したものが多い。しかし、本章の調査では紙媒体が生活情報へのアクセス手段として高い比率で選択されているという結果が得られた。

また、生活情報の収集にホームページを用いない人々に着目して分析を行ったところ、年齢が高いこと、もしくは職業を持たないことがホームページを使用しない確率を高めるという結果が得られた。そして、ホームページを使用しない確率はパソコンの使用頻度が高まるほど低下した。一方、モバイル端末の使用頻度とホームページを使用しない確率とは有意な関係になかった。高齢化が今後も進む

わが国においては、中山間地域以外の場所であっても、紙媒体と携帯電話が日常生活に関わる情報へのアクセス手段になることがわかった。

6章(結論)では、知人の訪問・社会活動、買い物、通院、高校通学というこれまでの章で扱った行動と情報通信サービスの関係性を代替、補完、相乗の3つの観点から整理した。インターネットは通院や実店舗での買い物を代替する可能性がある一方、これらの行動を補完する役割を果たしている。一方、紙媒体は趣味の会での活動や買い物、通院を補完する機能を有している。